

平成 29 年度 第 2 回大阪府立今宮高等学校 学校協議会 議事録

日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）15：50～17：00

場所：本校 校長室

協議会委員（敬称略） 出席者

吉村 和彦	芦屋大学特任教授 元今宮高校校長
竹村 弘文	大阪市立木津中学校校長
山本 英夫	戎橋筋商店街振興組合 事務局
川島 経正	自彊会会長
田中 佐祐美	後援会会長

1. 校長挨拶

- ・3年生受験モード。AO入試や公募で合格をしている生徒もいる。センターに向けてがんばっている。
- ・大学の入試改革への対応を視野に入れながら学校運営に従事。
- ・大きな行事（球技大会、学年行事）後は、高校入試モードに突入していく。10月現在の今宮への入学希望の数が昨年度に比べ15名少ない。オープンスクールの参加者も例年より少ない。浪速区、住之江区等の近隣の区の中学卒業生が例年より10%。
- ・学校運営委員会の変更 任期の変更がある。会の終わりに確認予定。

2. 協議会委員および事務局員紹介（西岡委員は欠席）

吉村氏…10月の全国総合学科研究大会で感じられたこと。総合学科の流れは間違っていない。

竹村氏…進路指導開始。私学の懇談開始。

山本氏…商店街での体験博。書画部の写真。今年の2年生が特にしっかりしていた。22万部のチラシ。

商店街の売り上げの半分は外国人観光客。ミナミが観光のハブになっている。ホシノリゾートの影響。
働き手の不足を補うため、外国人の採用を検討実施している。

川島氏…卒業して50年。今宮に来ることが楽しみ。ワクワク。240通りの感じ方を1年生に伝えた。

今宮の成り立ちを忘れないように。恩師の先生も集まる同窓会開催。

3. 事務局からの報告

①保護者からの意見…特になし

②学校の現状と大学入試改革（学校長より）

【大学入試改革】

◆大学入学者選抜改革推進委託事業主体性等分野の主体性等分野の代表校が関西学院大学。説明を受けた。
主体性評価が大学入試に加わることの説明。

①主体性等に関する情報を得点化し判定…例えば英検等資格、大会・コンクール等表彰を得点化
→クラウド上に入力し、センター入試等の得点と一しょに大学へ渡す方式を検討

②課題：主体性の評価をどうやって収集するか？→e-Portfolio 1年次から積み重ねしていく。
→その入力生徒が行い、承認をあげていく。（タブレットやスマホで対応）

*学校側が主体性等の評価を対応できる状態が必要。課題探求が3年の入試までに終わっている必要がある。

*英検が力試しではなく、入試に直結してくる。

【今宮高校の現状】

◆自彊会・PTA・後援会等の支援のおかげで教室にプロジェクター設備 大阪府下でも設置率高い。

- ◆英検…1次試験対策を外部の方に指導して、2次試験対策は本校英語教員で対応。
- ◆スタディーサポート…入学当初の成績はA3の位置が多い。最後瞬発力でカバーしている傾向。勉強時間は一旦少なくなったが現在は増えている。
- ◆勉強時間は2時間未満が多いが、今後は2時間以上すべきだと感じている生徒が多い。成績は伸ばしたいが勉強の方法が分からない生徒が多い。
- ◆今年の3年生がんばっている。
- ◆語学研修…研修に行った生徒は大変いい経験ができた。アメリカ、オーストラリア、隔年で。費用が高い。昨年度台湾の高校と姉妹校提携。アジアの方が多く来日されている関係で
- ◆風通しのよい校風を目指し…授業力向上のためパッケージ研修。公開授業週間。教頭の初任者指導等
- ◆先生方の負担…残業時間一旦減ったが、増加傾向。
- ◆電話対応について…8時～18時までは職員で対応。それ以外は留守電対応。教員の負担減。

③授業改善

【パッケージ研修】

授業力向上のためセンターのパッケージ研修を今年度活用

- ◆事前に授業についてのアンケート先生方にとり…ほとんどが意欲的に生徒のために取り組んでいる。
- 授業についての意見交流がない状態でこの改善が目的になった。

{改善に向けて}

- 1) 8月の研修で「主体的・対話的な深い学び」についての工夫を出し合い意見交流
ブレインライティング、KJ法でまとめる。教科横断がキーワードになった。
- 2) 保健体育科・藤本先生の「保健」の授業9月28日と11月10日に行った。
→授業研究(センターの指導主事のアドバイスをいただく)、改善点の確認
- 3) 11月13日からの授業公開週間にて、授業見学をしてもらい、ミーティング開催予定。
*生徒へ「しかけ」、評価をみとる。

{課題}

- 1) 研修等の時間設定が大きい(教員の仕事時間のあり方)。なかなか時間を作れず、研修に来る人数が少なかった。教員が研修する時間が持てるように。
- 2) 授業について話す機会を増やせるような仕組みを考える。

④その他

- ◆今年度の高校説明会22件・出前授業5件に参加
年々学校説明会の数が増えてきている。
- ◆入試選抜について 日程：3月12日(月)検査日
 - ・国語と英語は発展問題、数学は標準問題
 - ・調査書の扱い1年生：2年生：3年生=1：1：3
 - ・学力検査の配点 昨年と同様 学力検査：調査書 7：3
 - ・アドミッションポリシーの合格(ボーダーゾーン)
*学校協議会で指摘いただいたところの修正
- ◆教科書選定について

4. 協議(司会：吉村氏)

- ★事務局への質問等→特になし

★校長よりアドミッションポリシーの合格者についての意見を求める。

～今宮高校のアドミッションポリシーに基づく合格者の数について～

境田氏：今年度の本校のアドミッションポリシーの合格者の数は府下では多い方。

現状としては、合格する生徒が当日の学力検査と逆転する場合がある。

竹村氏：学力検査で逆転した生徒が学校の勉強についていけているのか？

境田氏：昨年度の入学者は倍率が低かったのであまり影響はないように思う。

今年度は倍率が高かったのでアドミッションポリシーでの合格者が多く、データはこれから。

例年であれば、2年生後半から影響がでてくるのでは。アドミッションポリシーは全員意欲的に書いている。

竹村氏：中学校では意欲的にアドミッションポリシーについて書くが、学力がついていっていないケースがある。この時には入学後、勉強についていっているのか？中学では入学後に対応できる志望校を進める。しかし、保護者など理想とは離れている場合があり、入学後ついていけるか心配。

山本氏：アドミッションポリシーを一生懸命書くことより、何がなんでも今宮高校へ入学したいと思えるかどうかでは？全体的な意味合いが強い。入学した時点で差がないようにがんばるべき。

境田氏：教育委員会の説明ではボーダーゾーンに入った時点で学力は充分であるとの見解。

吉村氏：今宮高校のアドミッションポリシーのスタンス（論理）合格者の学業への影響は？

境田氏：データとしては少ない。アドミッションポリシーの合格者の学業への影響はわからない。

川島氏：意欲がある生徒は伸び率が高いはず。今宮高校へ入学したいと思えるように。

塾の指導では、普通科と総合学科を比べると普通科を進めるようである。

吉村氏：総合学科の校長会では中学校や小学校の先生に「総合学科とは何ぞや？」のように説明がまだまだ足りてない。現在、文科省が報告しているアクティブラーニング、シティズンシップ教育、20数年前から総合学科が担ってきた教育そのもの。もっと中学校や塾にアピールすべきでは。

境田氏：学校の説明会があつて機会はある。しかし、教育委員会の定員の発表で、総合学科は最後の方で掲載されている。普通科と同列に扱ってほしいとの要望。中学生に考える機会を失っているのでは？

吉村氏：中学生にとって、どこに総合学科が掲載されているかは大事なのでは。中学校の総合学科の説明はどのようなものか？

竹村氏：普通科や総合学科は多種多様な道筋があるのではと指導している。生徒が求めているものが明確になればなるほど指導がしやすい。

境田氏：新入生になぜ、総合学科を選んだのかを聞くと、塾の先生や保護者の影響。総合学科だからという答えは10%くらい。

吉村氏：それでも今宮高校を卒業するときは満足度は高くなる傾向。

5. その他

◆学校協議会から学校運営協議会に変更 法律等々で規定等が変更になる（予告）

◆次回以降の予定案

第3回 2月9日（金）15：00～17：00

*2月9日（金）は1年生英語暗唱大会、2年生スピーチコンテスト